

令和7 (2025) 年度 児 童 館 事 業 年 間 活 動 報 告 書

紫野児童館

	活動名	実施回数	参加人数										内 容	成 果 と 課 題		
			乳幼児	小1～3年		小4～6年		中学生	大人	ボランティア					合計	
				自由来館	学童クラブ	自由来館	学童クラブ			中学生	大学生	大人				
基本活動	(2) 遊びの教室活動															
	あそびの教室「外あそび、室内あそび」	1		82	10							92	児童館でのあそびのルール、机の出し方など説明する。	施設外クラスに30人ほど在籍するようになり、本館の過密度が緩和された。安全性を担保するためのルールも多かつたため、子どもたちの意見を聞きながら、現状に応じたルールの見直しを行い、安全で楽しい場所になるよう、柔軟に対応していきたい。		
	あそびの教室「けん玉・こま」	1		83	9							92	上級生が技の披露をしたり、検定の内容や検定の受け方、けん玉の片づけ方、こまをするときの注意点などの説明をする。	けん玉・こまを得意とする児童に技の披露してもらったことで、子どもたちの興味、やる気を引き出すことができ、早速、けん玉・こまを手取る子どもが多かった。		
	けん玉検定	28		2 147	2 4							155	毎月の2日間検定を行う。年度末に級の認定証、挑戦数が多かった児童の表彰を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ技を習得し、級を上げていく児童がいる一方で、一定の級で止まっている児童も多い。また、検定を受ければ合格するだけの技能が身についている子どもの中には、検定の緊張感が苦手で、チャレンジしない子どももいるため、職員を含む後押しが必要である。 ・年度末には年間を通して多くチャレンジした子どもに表彰を行った。最後の賞状を目標に今年度練習を重ねてきた児童も多く、自分の頑張りが表彰という結果につながり、自信へとつながっている。 		
	こま検定	28		1 83	6 12							102		<ul style="list-style-type: none"> ・自分も上の級や段を目指そうと意欲的な子どもも多かった。けん玉検定同様に、年間を通して検定のチャレンジ回数上位者には年度末に表彰した。 ・上の級を目指して努力をし続ける大切さや楽しさを子どもたちが知るきっかけともなっている。 		
	けん玉・こま週間	2		35									35	5月、3月は週間で行う。	けん玉・こまを知り親しむ機会として、年に2回、週間を設けている。職員も一緒になって、けん玉、こまを練習することで、参加する子どもたちが増えた。検定を受ける勇気がない子どもたちが気軽に参加できる機会となっている。 ・欠けたりしている物も多いので、購入したい。	
	あそびの教室「オセロ・マンカラ」	1		30									30	オセロ、マンカラのあそびやルール、大会の出場方法を説明する。	マンカラについては、あそびやルールを知らない子どもも多いので、丁寧なルール説明を行った。 上級生が新1年生に説明したり、一緒に遊ぶよう、促していきたい。	
オセロ・マンカラ週間	5		2 139	9								150	対戦者の名前を記入するカードを用いて、多くの児童同士で対戦できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの友達と対戦することで、学年や小学校を超えて、児童の名前を覚えるきっかけにもなった。また、同じ人とばかりではなく多くの子どもたちと対戦する児童が多かったが、早くに勝負がつくマンカラの方が人気があった。 ・カードには、5回ごとに大きなシールを貼れる楽しみを追加し、本館・施設外クラスともに、マンカラ週間で1番多くの人と参加した子どもに「よくあそんだで賞」の賞状を渡した。 		

子ども育成機能

基本活動

あそびの教室「きりえ」	1			32									32	全児童対象にカッターナイフの使い方やきりえのやり方や進め方の説明を行う。	1年生にとっては初めての説明で、刃物を取り扱うことの危険性を伝えるとともに、2年生以上もケガのないよう緊張感を持ってきりえに取り組むことにつながった。
きりえ週間	23		3	273									291	7月は1年生は基本の切り方を習得できる簡単な図に挑戦し、他学年は自分のレベルにあった図を選んできりえを作成した。	ほとんどの児童が作品に挑戦し、完成することができた。1月のきりえは作品展に向けてとなるので、難しい図柄に挑戦する児童もいた。今年度は、事前に図案を決めてもらったことで、入室してから、すぐにきりえに取り組めるよう工夫をした。その結果、取り組む時間を少しでも長くすることができたが、最後まで仕上げられそうになく、途中で図案を変更したり、諦めたりする姿もあったので、「やってみよう」という意欲だけではなく、最後まで取り組めるかどうかも考えた上で図案を決定できるような声掛けをしていきたい。また、色画用紙を入れ貼り絵の要素を取り込んだり、イラストを描き加えたりすることで、オリジナリティを出すことができた。
あそびの教室「卓球」	1			67	4	15							86	卓球のルールを見やすいように大きなピン球を使って説明する。	分室閉室日を設定し、分室の児童も含めて基礎的なルールの説明を行った。その結果、卓球に挑戦する1年生も多くなり、今後も卓球に親しむ機会を設けていきたい。
卓球週間	9		3	165	1	24							193	1台で王様形式で進め期間と、2台で試合形式で行なう期間を設ける。	普段、卓球をしない児童も卓球に興味を持ち、挑戦する姿が多く見られた。老人福祉センターで活動されている（介助ボランティア）の働きかけもあり、卓球がブームになっていった。参加者が多いので、卓球台を2台出す日も多かった。
エコ工作	5			52		8							60	廃材を利用して、自由に工作をする。	家から工作のために廃材を準備して持ってきた子もいた。武器になるようなものは作らない、最後まで完成させる、持って帰る作品にするなど、トラブルにならないように、今年度はルールを設けた。次年度も長い夏休み中のイベントとして継続していきたい。
あそびの教室「ドッジボール」	1			70		4							74	ドッジむらさきのカップに向けてドッジボールのルールの説明、確認をする。	基本的なルールを本館分室両方で確認する。コートを横切る等あそびの中でルールが緩んでいたのが、説明を受けて職員からの注意も入りやすくなった。
ドッジボール週間	6		1	198		15							214	多くの児童が参加できるようにチーム編成を工夫してドッジボールの練習をする。	本館は日によって、男女別や学年別のチーム編成にしたので、新鮮味を味わいながら参加できた。分室は分室でむらさきのカップを行うことになったので全員参加で練習する。消極的な子も多かったが試合に本番に向けて練習できた。
クリスマス工作	5		2	72	1	3							1	モールなどを使用して、クリスマスツリーを作る。	円柱にした紙皿にモールをグルーガンでつけ、ビーズなどで装飾をして、クリスマスツリーを完成させた。グルーガンの使用について、繰り返し注意していたが、火傷のケガがあり、軍手をはめて実施するなど対応した。更に細心の注意を払っていきたい。また、地域の大人の参加もあり、児童館の広報が地域に伝わっているとも感じられた。次年度以降も、子どもたちだけでなく、多くの人が「作ってみたい」と思えるような内容にしていきたい。

あそびの教室「かまぼこおとし」	1			66		5							71	かまぼこおとしのルールの説明、大会での注意事項を説明する。	あそびの教室の実施にあたり、職員同士で、かまぼこおとしの技をひとつひとつ確認しながら、ルールの統一を図った。日常のあそびの中では曖昧になりがちな部分も改めて説明することで、週間につなげることが出来た。	
かまぼこおとし週間	6			160		1							161	かまぼこおとし大会に向けて練習をする。	週間中、多くの児童が「かまぼこおとし」であそび賑わった。また、家からかまぼこ板を持参し「マイかまぼこ板」を作り、技をひとつひとつ確実に成功させるために真剣に取り組む姿もあった。	
(3) 行事活動																
マンカラ大会	1		1	77		9							87	個人戦で、トーナメント方式で行う。準決勝、決勝は出席児童全員で観戦する。	今年度は本館、分室とわかれて実施。分室でも10名の参加があり、大会に参加してくれた児童が多かった。分室は同じ小学校のメンバーであるため、登館時刻の差もなく、スムーズに始められた。準決勝では大会に参加していないメンバーも全員参加し応援を行った。次年度以降も引き続き、マンカラ大会は本館と分室わけて実施したい。	
ようこそアーティスト	1	1	7	14		2						4	28	子どもたちに、文化・芸術をもっと身近に感じてもらうため、京都を拠点に活躍する芸術家を派遣してもらおうプログラムを児童館で実施する。	文化芸術授業（マンガ編）を実施。初心者にもわかりやすい内容で、プログラム終了後のアンケートでは、「絵が下手だし・・・と思ったけど、絵は色々でいいということを知った」など、描き方の技法だけでなく、「絵」そのものの奥深さまで参加者に伝わり、文化・芸術に触れる貴重な機会となった。	
子ども夏まつり実行委員会	2					6							13	夏まつりに向けて子どもたちが企画から準備、運営に参画する。	実行委員、学童クラブの3年生と高学年以上が在籍する「エンジョイクラブ」とがつくる子どものお店がならんだ。今年度は、実行委員の「今までと同じことはしたくない」という子どもたちによるアイデアが光る制作物もあり、例年にないコーナーもできた。準備から積極的に楽しく取り組む児童が多かった。	
子ども夏まつり	1	1	8	88	14	17						2	7	137	夏まつり実行委員会を中心に、準備、店番などをして、夏のイベントとする。	学年ごとに楽しむ側、楽しませる側に2交代し、それぞれが楽しむことができた。また、今年度も民生児童委員の協力も得られ、2つのコーナーを担当していただいた。 ・工作コーナーは、昨年度の反省をいかに、簡単に出来る”くるくる紙コップ”とした。しかし、飛ばすには少しコツがいるため、飛ばし方をもう少し丁寧に教える必要があった。
卓球むらさきのカップ	1		1	72		7							80	学年混合のチーム戦で卓球の試合をする。決勝戦は全員で観戦する。	一部の小学校の児童の登館が遅くなり、試合開始が大幅に遅れた。その分、終了時刻がずれ込み、表彰式が出来なかったため、翌日以降、個別に賞状を渡した。土曜日実施にすると参加者が減るので、課題は残るが平日の実施としたい。 ・試合中は、チーム内で声を掛け合ったり、応援する姿が多く見られた。	

おばけやしき実行委員会	5		3	77									80	おばけやしきの内容の話合い、グッズや看板の制作、当日の役割決めをする。	今年度は実行委員で、テーマを「8番出口」に決め、道具を作るなどの準備を行った。おばけ役を希望する児童が多く、各役割の人数調整に手間取ったが、最終的には、やりたい役割をすることができた。当日は、おばけ役、受付、お助け役、景品渡しと役割を担い、自分たちで作りあげる「おばけやしき」となり、達成感を味わうことが出来た。また、終了後に「お疲れさん会」を実施、振り返りを行い、実行委員としての満足感と自覚を再確認する場となった。
おばけやしき	1		12	72	2	2							88	日ごろ実施できない「おばけやしき」を楽しむ。	毎年、楽しみにしている”おばけやしき”を楽しむ。普段、児童館を利用しない自由来館児童も例年に比べ、多くあった。 ・また、自分も3年生になったら、実行委員（おばけ役）がやってみたい！との声も多くあがった。
やきいも実行委員会	5			66									66	やきいもパーティ当日、焼きいもが焼きあがるまでの時間をどのように過ごすか話し合い、決定する。	「やきいも福笑い」と「いも探し」の2種に決定し、それぞれに必要なものを制作、やきいもパーティ当日に実行した。ゲーム開始時に帰ってきていない児童が多く、メンバーの割り振りやゲームの説明に時間がかかってしまったが、子どもたちは楽しみながら実行することができた。
やきいもパーティ	1	22	4	63	9	5						18	105	館のグラウンドで焼いたやきいもを午前中は乳幼児向けに、午後は小学生向けに味わってもらおう。	午前中は乳幼児親子、午後は小学生を対象にプログラムを実施。午前中はやきいもにちなんだ紙芝居を読み、午後は”やきいもパーティ実行委員会”による「焼き芋ふくわらい」と館内に色画用紙の芋を隠して行う「焼きいも探しゲーム」を行った。ゲームの後にやきいもと飲み物（ジュースバーを開いて）提供した。突然に雨が降り、急遽、室内にしたので、雨の場合もしっかり話し合っておく必要がある。
ドッジボールむらさきのカップ2025	1			73	1	5							79	本館・施設外クラスとも、チームに分かれてドッジボールの対戦する。	本館・施設外クラスとも、チーム内で上級生が下級生を守ったり、励ましあったり協力しながら試合に臨んでいた。今年度も高学年にチーム分けを行ってもらい、勝負についても自分たちが納得した大会にする。 ・利用者からいただいたトロフィーがあり、分室用として作り、子どもたちも喜んだいた。
合同遠足「船岡山公園」	1		8	12								3	34	合同遠足として「船岡山公園」に行く。自由来館児童、学童クラブ児童、および保護者の参加も促し、親子行事とする。	今年度は、実施の決定が遅かったこともあり、行き先を近場の「船岡山公園」とした。保護者の方の参加もあり、ウォークラリーのあとの鬼ごっこでは、保護者が率先して鬼役を引き受けてくださり、子どもたちは大いに盛り上がった。また、保護者にも普段の子どもの様子を知るきっかけともなった。

子ども育成機能

基本活動

クリスマス会実行委員会	4	5	18											23	クリスマス会に向けての出し物を決めたり、ポスター作りをする。	「シルエットゲーム」と「箱の中身はなんだろうゲーム」の2つや幕間を企画、当日に向けて準備を行った。シルエットゲームでは、身近にあるもので、すぐにわからないようなものは何かを考え、リハーサルを行いながら、難易度別のアイテムを用意した。また、クイズ用のおしゃれな家など制作物にも力が入っていた。 ・当日は活き活きした姿が見られ、これからも子どもたちが主体となることができるような支援をしていきたい。
クリスマス会	1	2	72											78	実行委員や学童クラブ3年生が考えたゲームや職員出し物を楽しんだ後、サンタが登場、プレゼントをもらう。	・実行委員や学童クラブ3年生の企画を、みんなで楽しむことが出来た。また、今年度も北老人福祉センターの方にサンタ役を担っていただいた。 ・クリスマスプレゼントは、ツリーに靴下を飾っておき、リクエストを書いておけるようにした。子どもたちが欲しいと思っているものを、出来るだけ用意したことで、開封する度に声援が上がり、誰となく歌をうたいだし、会が盛り上がった。
大そうじ	1	1	60											65	各部屋、玄関グラウンドを手分けして掃除をする。	くじ引きで担当を決め、エコくらぶで作ったマツイ棒を片手に普段は手の届かない場所も、ほこりや汚れを宝探しのように見つけ掃除ができた。掃除後、今年度はみんなでたい焼きを食べた。3種類の味を選べる形にし、子どもたちに好評だった。
かまぼこおとし大会	1		67	1	4									72	個人戦で、トーナメント方式でかまぼこおとしを競う。決勝は出席児童全員で観戦する。	分室を閉室し、本館・分室合同メンバーで実施。毎年のものであるが、当日欠席者が数名あり、作成したチーム編成をやり直す等、試合がスムーズに進みにくい。 ・来年度は、技を順番に進めるのではなく、技を選定し、より大会を面白くするための工夫をしていきたい。
安全の日	12	1	839	1	79								2	922	緊急時の集合、整列、点呼の後、安全、災害にまつわる話、クイズをする。	外に避難するまでの時間も徐々に短くなっている。災害時に素早く安全に行動できるよう、継続して取り組んでいきたい。しかし、集合してからの時間、砂いじりが多いので、話を聞くよう注意を促していきたい。 ・訓練後の豆知識（クイズ等）は、意識の積み重ねと捉え、大切にしていきたい。
4施設合同避難訓練	2		110		7							12		129	北合同福祉センター全体での避難訓練を実施する。	年に2回、北合同福祉センター全体での避難訓練を行う。出火場所が毎回異なって設定され、出火場所に応じた避難ができるよう実施している。 ・数年、児童館からの出火した訓練がされていないため、消防署に依頼をしていく。

(4) クラブ活動																
エンジョイクラブ	12				77	24					101	小学4年以上の登録制クラブ。メンバーで活動内容を決めて、工作やクッキングなどやりたいことを行う。	今年度、登録者数が増えたことで、毎回の活動をより楽しみにする様子があった。外遊びを希望するメンバーが多く、おでかけも2回取り入れながら、クッキングや手芸、工作など、1年間を通して多くの体験ができた。子ども夏まつりでは「グラムあて」のコーナーを企画し、当日も、積極的に参加する児童が多かった。来年度もエンジョイクラブの魅力を伝えながら、広報に力を入れていきたい。			
エコくらぶ	12		1	883		85					969	主に環境にまつわるクイズ形式の話をする。	毎月1回「DO YOU KYOTO DAY」にちなんで、エコに関するクイズを出題し、環境のために出来ることは何かを考える機会とする。毎回、子どもたちも真剣に耳を傾け、子どもらしい意見を出してくれている。			
(5) 地域間交流																
ふれあい卓球大会	1	1	12	13	5	1					14	老人福祉センターの卓球サークルの方、保護者、児童の混合チームを卓球の交流をする。	老センのサークルの方、保護者が入ったの対抗は大いに盛り上がった。後日、お礼の写真入りのメッセージカードを児童が書き、老センで手渡し喜ばれた。また、京都市社会福祉協議会発行の京都市社会福祉協議会発行の「福祉のまちづくり」にも当館の一押し事業としても掲載していただいた。			
京都やんちゃフェスタ2025 ミニ・ミュンヘン	1	7	9	10							21	梅小路公園で行われる、児童館・学童保育所のおまつりに参加し、ゲーム、工作、あそびを楽しみ、ステージでダンス発表をする。	今年度より、京都やんちゃフェスタは、隔年で開催することになった。学童クラブ児童は、ミニステージでダンス発表をした。また今年から開催された「京都版ミニ・ミュンヘン」も子どもたちに好評だった。次の開催は再来年度になるが、京都市の全ての児童館が集まるこのおまつりを大切にしていきたい。			
FUNAOKA STANDARD2025	1	5	11	11	1						1	24	誰もが船岡山公園で楽しむための福祉まつりで、色々なコーナーを回り、ステージ発表をする。	児童館を閉館して、自由来館児童、学童クラブ出席児童全員を引率し、おまつりに参加した。ステージ発表やあそびなどのコーナーを楽しんだ。次年度以降も、ステージ発表をすることで、おまつりを盛り上げていきたい。		
交流行事2025	1		4	9		1						14	第1ブロックの北グループの児童館・学童保育所と、コーナーあそびやドッジビーなどをして交流する。	今年度は、ドッジボールではなく、交流行事という形式になり、他館の子どもと協力や対戦し、交流を楽しめた。記録に挑戦するコーナーもあり、没頭して取組み午後の部で1位を取るなど達成感を味わうことができた。		
スマイルフェスタ	1	7	7	11	1							24	5	55	老セン、授産所、地域の方、民協と協力をして世代間交流を図る。	「童謡歌唱サークル」「ハーモニカ同好会」との交流、みんなあそびの「ジェスチャーゲーム」で多世代での交流を深めた。また、地域の方による「手品」を披露していただいた。実際に、手品を間近で見たり、誰でもできる手品を教えていただいたり、種明かしをしてもらったりと、盛りだくさんな内容で、参加者全員が楽しめるものとなった。 ・後日実施のお別れ会で、子どもたちが、自分達で手品をやりたいとプログラムに組み込んでいた。

子ども育成機能	家族であそぼう「かまぼこおとし」	1	3	6	7				3					19	児童、保護者、職員混合で二人ずつチームを組み、かまぼこおとしをする。	保護者の参加は少なかったが、館で流行っているあそびを、親子で一緒に体験出来る機会となった。参加後に「家でかまぼこおとしのルールを聞いてはいたが、どんなあそびか想像できなかった。実際にやってみて、こんなに楽しめる遊びだと知り、夢中になる理由がわかった」という保護者の声もあり、引き続き家族参加を促す行事を実施していきたい。
	鳳徳デイサービスセンターとの交流事業	2			21			5						26	鳳徳デイサービスセンターの利用者と世代間交流を図る。	1回目は馬頭琴の演奏を、鳳徳デイサービスセンターの利用者さんと一緒に聴き、2回目は学童クラブのダンスを披露し交流を図った。応援うちわをプレゼントしていただき、利用者さんが心待ちにしてくださっていることが伝わった。次年度も引き続き継続していきたい。
	中高生と赤ちゃんとの交流事業	12	52	2				156	70				2	282	乳幼児親子と京都市立清明高校の生徒で交流を図る。	今年度は、高校生も積極的に交流に参加してくれるようになった。高校生によるお店屋さんごっこなど、昨年度にはなかった「高校生企画」を取り入れ、乳幼児クラブで実施してもらった。最初はどのように接したらいいかわからない高校生も次第に慣れてきて、乳幼児、高校生の双方が楽しむ様子が見られた。
	合 計	209	99	119	4499	134	400	157	196	#REF!	0	16	5489			
推 進 活 動																
	合 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
子ども育成機能 合 計		209	99	119	4499	134	400	157	196	#REF!	0	16	5489			

*注 基本活動は、指針に基づき(2)遊びの教室活動(3)行事活動(4)クラブ活動(5)地域間交流促進活動(6)障害のある児童の居場所づくりと活動への参加促進(7)思春期児童の活動支援に分類して記入すること。
 推進活動は、指針に基づき(9)地域を知る活動(10)移動児童館活動に分類して記入すること。
 指定活動は、指定児童館のみ別途報告すること。

動	(3) 子育て家庭相談・援助活動	子どもの年齢	件数	理 及 び 相 談 経	件数	相 談 内 容	件数	つないだ機関等	件数	
		乳児	3	児童館にて直接受理	66	健全育成問題	26	児童相談所	0	
		幼児	6	児童相談所	0	家庭養育問題	7	保健所	0	
		小1～3年 (自由参加)	6	保健所	0	成長・発達問題	27	子ども支援センター	0	
		小1～3年 (学童)	49	子ども支援センター	0	教育問題	1	幼稚園・保育園	0	
		小4～6年 (自由参加)	1	主任児童委員	0	非行・問題行動	2	小学校	1	
		小4～6年 (学童)	0	その他	0	その他	3	中学校	0	
		中学生	0	{ }	{ }	{ 学童のおやつの件 学級閉鎖時の利用について 登館方法について }	3	総合支援学校	0	
		高校生	1					その他 { 警察 }	1	
		件数 計	66	—	66	—	66	—	2	
(4) 子育てグループを育成・支援する活動	グループ名	構成人数	活 動 内 容		育 成 ・ 支 援 内 容		成 果 と 課 題			
		0								
推 進 活 動	(5) 子育てと健全育成に関する啓発活動	活動名	実施回数	活 動 内 容			成 果 と 課 題			
		「京都市家庭ごみ有料指定袋無料引換券」の引き換え	随時	引き換えに来られた親子に児童館を案内、取組を紹介する。			出産された方が児童館を知るきっかけとなる。来館時にしっかりとおたよりやチラシを渡し、利用へつなげていきたい。			
		「京都市子育て応援パスポート事業」	随時	希望者に配布			アプリバージョンを持っている方が多いようで、希望者がいない。			
		「ゆずりますもらいます事業」	随時	使用しなくなった子育て用品のリサイクル活動			おもちゃや絵本等の寄付の申し出が度々あるので、その都度、北エコまちステーションに回収していただくことができた。今年度は、児童館で子ども服リユース事業も実施できた。			

※注 基本活動は、指針に基づき(1)乳幼児とその保護者を対象とする活動[①乳幼児クラブ活動 ②乳幼児の広場活動] (2) 家族参加を促す活動に分類して記入すること。

活動名	実施回数	主催	参加人数								連携団体	成果と課題	
			乳幼児	小1～3年		小4～6年		中学生	大人	合計			
				自由来館	学童クラブ	自由来館	学童クラブ						
廃油回収	24	紫野児童館								4	4	北エコまちステーション	天ぷら油の廃油回収を行う。今年度は、「のぼり」の写真をおたよりに掲載するなど広報の工夫を行い、わずかながらではあるが、回収日に持参してくださった方があったが、なかなか利用につながらないことが現状である。
中学生世代と赤ちゃんとのお交流活動	12	紫野児童館 清明高校	52	2				156	70	280	京都府立清明高校	今年度は、高校生も積極的に参加をしてくれた。取組の中で高校生に読み聞かせやサンタ役など、役割を設けることで、目的を持って参加してもらえたように思う。年度末の振り返りでは、「印象に残っているのは親御さんの悩みを聞く職員さんの姿です。お母さんになったからといっても全部を理解できるわけではないし、不安なこともあるよと改めて思ったし、子ども達を見守ることだけが職員さんの仕事ではないんだなと思いました」など、職員と保護者との交流や会話が学びになったと回答する生徒さんも複数いて、高校生にとっての学びや体験の良い機会となっている。交流をする乳幼児さんが少ない時は、児童館内の環境整備などに時間を充ててもらうなどすることで、間接的にも学べる工夫をしていきたい。	
子ども夏まつり	1	紫野児童館	1	8	88	14	17		9	137	民生児童委員協議会 (運営協力会)	当日は、平日にもかかわらず鳳徳学区民生児童委員協議会さんのご協力も得られ、受付に加え、2つのコーナーを分担していただいた。民生児童委員さんも地域の小学生に関わることができたことにやりがいを感じられていた。子どもたちにとっても、行事を通して地域で支えてもらっていることを実感できている。	
びよっこ広場	4	鳳徳学区 民生児童委員協議会	19						46	65	民生児童委員協議会	普段、児童館を利用いただいている方だけでなく、近隣他学区からの参加もある。お仕事に復職されている方も、びよっこ広場の日にあわせてお仕事を休んで参加される方もあり、毎回好評である。民生委員さんたちのお声掛けによる力も大きい	
ふれあい卓球大会	1	紫野児童館	1	12	13	5	1		14	46	北老人福祉センター	今年度も、家族や北老人福祉センターの方々や小学生との混合チームを作り、卓球を通して世代間交流（チームを組んで対戦するだけでなく、励ましたり教えていただいている姿が多く見られた）をすることができた。また、後日、北老人福祉センターの方々にお礼の写真入りのメッセージカードを子ども達から渡しに行った際、老人センター内で卓球をさせてもらう機会をいただき、子どもたちも喜んでいました。 ・京都市社会福祉協議会発行の「福祉のまちづくり」にも当館の一押し事業としても掲載していただいた。	
交流行事 2025	1	第1ブロック 合同行事 実行委員会		4	9		1			14	第1ブロック 施設長会	第1ブロックを北・上・中京区の3つのグループにわけて交流行事を実施。 ・北区にある、児童館・学童保育所の子どもたちが、ドッジビー、ペットボトルキャップつみ、大型オセロ、お絵描きなどのコーナーを自由に回することで交流もはかった。 ・しかし、コーナーあそびにすると、「まつり」と形態が似ており、ドッジボールなどのチーム対抗の方が、より他館との交流を深められるのではと感じた。	
やきいもパーティ	1	紫野児童館	22	4	63	9	5		18	121	運営協力会	午前中は乳幼児親子、午後は小学生を対象にプログラムを実施。午前中はやきいもにちなんだ紙芝居を読み、午後は「やきいもパーティ実行委員会」による「焼き芋ふくわらい」と館内に色画用紙の芋を隠して行う「焼いも探しゲーム」を行った。ゲームの後にやきいも飲み物（ジュースバーを置いて）提供した。また、運営協力会を通じて普段からお世話になっている地域の方々にも、やきいもパーティに招待をしたが、ほとんど来ていただけなかったため、当日、何か役割があった方が参加してもらいやすいのかもれない。	
民生児童委員懇談会	1	紫野児童館							9	9	鳳徳民生児童委員協議会	令和6年より実施。児童館事業（子育て支援）への理解や課題、ご協力いただきたい事業内容等について、率直な意見をたくさんいただいた。また、懇談会の開催や一緒に行う事業が増えたことで、連携が密になってきていると感じる。	

(1) 地域住民と
交流を促進する
活動

地域福祉本社会活動促進機能

(1) 地域住民と交流を促進する活動

スマイルフェスタ	1	紫野児童館	7	7	11	1			29	55	北老人福祉センター運営協力会 民生児童委員協議会	北老人福祉センターの「童謡唱歌同好会」と「ハーモニカ同好会」との演奏や、ジュエチャーゲームで多世代で交流し盛り上がりすることができた。また、鳳徳学区にお住いの方に来ていただき、マジックを披露していただいた。子どもたちも実際にマジックを体験できる機会を持ち、子どもたちにとっても貴重な体験ができた。 ・運営協力会のお力を借り、2年連続、地域で活躍されている人材を紹介していただくことができた。当日だけでなく、日常の活動に繋がっているのも児童館にとって貴重である。
作品展	6	紫野児童館	7	7	11	1			35	61	北老人福祉センター	学童クラブ児童の「きりえ」作品を地域の方や保護者に見にきていただくことが出来た。ただ、老人福祉センターの活動である、「書道」と「ぬりえ」の作品は、当日以外では1名しか見に来られなかったもので、出品者の方にも来ていただけるよう、ピラノの作成やピラノにプレゼント券をつけるなど、児童館としても工夫を行いたい。また、作品を通して、児童館と地域のつながりや取組を知る機会となってもらえると嬉しい。
家族であそぼう「かまぼこおとし」	1	紫野児童館	3	6	7				3	19		保護者、職員、子どもとの混合チームを作り、かまぼこおとしを通して、親子（家族）で交流することができた。交流後は、「かまぼこおとし」の遊び方を家で聞いていたが、よくわからないことが多かった。実際に試してみても奥が深く、子どもがはまる理由がよくわかった、という感想もあった。保護者の参加が少なくなっているため、お迎え時など、個別にお誘いするなど工夫していく必要がある。
紫野児童館運営協力会	4	紫野児童館							35			地域の子どもの子育て家庭支援、児童館事業への理解が得られるよう実施。今年度は、地域の方々の意見により、2回は児童館で実施。2回は「鳳徳各種団体連絡協議会」の開催前に鳳徳小学校で実施し、地域の方の負担を軽減することが出来た。また、毎月開催される「鳳徳各種団体連絡協議会」にも施設長が参加し、児童館のおたよりを配布するとともに、児童館の現状や協力をお願いする時間をいただくことも定着してきた。
京都やんちゃフェスタ2025	1	京都市児童館学童連盟	7	9	10				21	47	北・上京・中京区児童館・学童保育所	コロナ前まで、毎年開催していた「京都やんちゃフェスタ」が、今年度、梅小路公園で復活した。ステージ発表とあそびのコーナー、工作コーナーに分かれて、来場者は楽しんだ。自館からもステージ発表にも積極的に参加する事が出来た。保護者も我が子の発表する姿だけでなく、全市の児童館・学童保育所について知る機会となった。
FUNAOKA STANDARD 2025	1	北区社会福祉協議会	5	11	11	1		1	24	53	北区社会福祉協議会	ステージやあそびのコーナー、体験コーナーに多くの模擬店などがあり、自館からもステージでダンス発表を行った。当日は、館から引率した子どもたちや、家族で遊びに来ている方々など、多くの来場者数でにぎわった。
子育てコミュニティパーク	1	北区の児童館	2						2	4	北区の児童館	船岡山公園に北区の児童館・学童保育所の利用者が集まり、普段利用している児童館を超えてあそびを通した交流ができた。また、他館を知る機会になった。
4施設合同避難訓練	2	京都市紫野障害者授産所			110			7	12	129	北図書館 京都市北老人福祉センター	年に2回、合同施設内の4施設いずれかの出火場所を想定した避難訓練を行う。今年度は児童館が出火場所としての訓練を実施してほしいと依頼していたが、実現できなかったため、次年度も引き続きお願いしていきたい。また、その時々に応じた避難の仕方や、避難するときの注意点を消防士さんから講評をいただくことで学んだり、再確認することができた。また消火器の取扱いについてもデモ機を使って実際に行った。
鳳徳小夏まつり	1	鳳徳各種団体連絡協議会	38	269		178		16	118	619	町内会連合会、共同募金会、交通安全協会、地域女性会、日赤奉仕団、体育振興会、鳳徳フェニックス、少年補導委員会、保健協議会、献血推進会、自主防災会、消防分団、親児の会、旭ジュニアーズ	今年度より、主催が「鳳徳小親児の会」から「鳳徳各種団体連絡協議会」主催へと変更された。鳳徳小民生児童委員協議会と児童館とで、「ジャンボオセロのコーナー」と「豆つかみ」コーナー2つを展開した。当日は、模擬店やあそびコーナーがたくさんあり、多くの来場者で賑わっていた。また、学童クラブ児童による、ステージでのダンス発表も行った。地域全体で学区のおまつりを支えているこの繋がりを、これからも大切にしていきたい。来年度は、乳幼児も楽しめるコーナーを考え、まつり全体を盛り上げていきたい。

鳳徳デイサービスセンターとの交流事業	2	紫野児童館			24			2		25	51	京都市鳳徳老人デイサービスセンター	6月は馬頭琴の生演奏と一緒に聴き、11月は利用者さんにダンス「ライラック」と「私は最強」を披露した。また、利用者さんから、装飾された「うちわ」のプレゼントもあり、次年度も多世代との交流を続けていきたい。
合 計	65	—	164	339	357	209	31	173	474	1663			
(2) ボランティア活動の推進	活 動 内 容				活 動 人 数				成 果 と 課 題				
					中高生	大学生	大人	合 計					
	卓球の指導								老人福祉センターにて卓球の活動をされている方が、本児童館の介助ボランティアでもあり、活動後に児童館に立ち寄り、子どもたちに卓球の指導をしてくださっている。子どもたちに人気で、卓球がブームとなっている。				
		合 計	0	0	0	0							
(3) 地域との連携を促進する活動	連 携 団 体 等	連 携 内 容						成 果 と 課 題					
	北図書館	合同会議、防災訓練、図書館の利用、掲示物の交換、利用者向けおたより配架						今年度から、児童館の場所提供をしておたのしみ会の実施はなくなったが、おたのしみ会当日に図書館からのお誘いはあり、希望者がいれば参加している。					
	紫野授産所	合同会議、防災訓練、おたより交換、スマイルフェスタ、交流行事						各関係機関とのつながりを今後も大切にして取り組んでいきたい					
	北老人福祉センター、紫野授産所	合同会議、防災訓練、おたより交換、スマイルフェスタ、交流行事											
	鳳徳各種団体連絡協議会	児童館だより回覧（第2木曜日館長出席）											
	鳳徳学区民生児童委員協議会	びよっこ広場 懇談会											
	北子どもはぐくみ室	ステーション会議、北区子育て支援関係者会議、来館親子の情報交換、子育て講											
	北区役所まちづくり推進課	利用者向けおたより配架											
	北警察署	幼児クラブセーフティ依頼、交通安全（スクールサポーター）											
エコまちステーション	資源ごみ回収、エコの日、天ぷら油回収・子ども服☆リユース事業						子ども服やおもちゃを児童館に持ってきてくださる方がいるので、エコまちステーションに定期的に引き取りに来てもらっている。今年度は、エコくらぶでクイズなどを出題してもらおうなどの連携もしていきたい。						

		組織名称	構成団体・個人	会議／取組頻度	議題／取組内容	成果と課題
基本活動	(4)児童館を支える地域	・学童クラブ保護者会	・学童クラブ登録家庭の保護者	随時	・事業への相互協力・総会など	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度より保護者会用の連絡ツールとして、専用のアプリを導入されたが(サークルスクエア)、登録されないご家庭も多く、配信をしても、なかなか全世帯に周知出来ないとのこと。保護者会専用アプリは廃止の方向で動いている様子。そのため、児童館が導入しているアプリ「さくらdays」を使って、保護者会から案内を配信するようになった。 ・昨年度同様に、夏休みに2回「お弁当いらんデー」の費用支出に追加し、今年度は、春休み中の「おやつ」も保護者会から支出してくださった。また、突然の雨対策のため、児童館の「貸し出し用傘」を購入もしていただく。 ・今後の保護者会活動の方向性については、検討中とのこと。
		・北区児童館学童保育所連絡協議会	・北区内児童館、学童保育所	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・北区「はぐくみ」ネットワーク会議 ・北区未来につながる区民会議 ・北区社会福祉虚偽会評議員 ・北区地域福祉推進委員会プロジェクト会議 ・北区要保護児童対策地域協議会 ・北区子育て支援ネットワーク会議 ・北区子ども発達支援ネットワーク会議 ・FUNAOKA STANDARD ・保健センターとの連携事業 ・学習会(情報交換会) ・上賀茂神社作品展 ・北区子育て支援推進会議 ・北区子育てコミュニティパーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担を行い出席、報告しあうことで、行政区の活動をより幅広く知ることができた。 ・上賀茂神社作品展など、北区の児童館のPRを広く一般市民することができた。 ・「FUNAOKA STANDARD」や「子育てコミュニティパーク」では、北区の児童館、学童保育所が連携し、コーナーを出展することで、北区の地域の社会資源として市民にPRする事が出来た。 ・来年度は、より目を引き、活動を知っていただくため、“のぼり”の作成を検討中である。
		・紫野児童館運営協力会	・鳳徳町内会連合会、鳳徳民生児童委員協議会、鳳徳地域女性会、鳳徳少年補導委員会、鳳徳体育振興会、鳳徳消防団、鳳徳学区自主防災協会、鳳徳社会福祉協議会、京都市立鳳徳小学校PTA、鳳徳交通安全協会、京都市立鳳徳小学校	4回	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館の役割と事業内容について ・情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、鳳徳小学校の生活科ルームをお借りして、運営費している「施設外クラス」について、今までの経過や現状、課題をパワーポイントを作成しお伝えする事が出来た。 【令和6年度までは希望制にしていたが、希望者数が少なく、本館との人数の偏りがあった。本館の過密を防ぎ、分室の集団づくりをするため、今年度からは新1年生全員と希望者として編成。新1年生を全員分室にしたことで、人数も増え、分室のみで出来る行事も増えてきた。ただ、このやり方だと、新1年生が2年生に進級時には本館に移らねばならず、本館での生活に慣れてもらうための工夫が必要である。】 ・紫野児童館の施設外クラスについての理解が深まった。
地域		・民生児童委員協議会との懇談会	・鳳徳民生児童委員協議会	1回	・児童館の事業の報告や意見交換など	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館の現状をお伝えし、意見交換を行うことで、今後の事業のあり方や進め方などについて、互いに検討する機会となった。その中で、令和6年度に、立ち上げた「おしゃべりクラブ」に代わる「親子でリフレッシュ」内の第3週「おしゃべりカフェ」に於いて、民生児童委員さんにお越しいただき、飲み物片手に保護者同士がおしゃべりできる機会を月1回設けることになった。おしゃべりカフェ内で提供する飲み物は、民生児童委員協議会さんが支出して下さっている。
福祉						

促進		・ステーション会議	・北区地域子育てステーション ・北区社会福祉協議会 ・北子どもはぐくみ室	1回	・取組の報告や事例 ・情報、意見交換など	・ステーション施設同士のつながりが深まった。 ・各施設が地域に向けて子育て支援を発信していく意識をもつことができ、共催事業が増えた。 ・数年取組めていなかった、「子ども服☆リユース事業」を、親子クラブ「親子でリフレッシュ」にて実施し、不要になった子ども服を必要とする家庭に無償で譲渡できた。その際、地域の「みんなのキッズクローゼット」（北区民まつづくり支援事業）にお声掛けし、一緒に取組む事が出来た。	
	機能	会場提供・備品貸出等	使用目的	提供先（団体・機関等）	成果と課題		
	(5) 地域への施設提供	わたがし機	大宮商店街夏まつり	ワットムセン	地域のおまつりに貢献することができた。		
推進活動		調査名	調査目的	調査対象	調査主体	調査方法	成果と課題
		・エンジョイクラブ	・利用者の意識調査 ・次年度の運営の参考にする。	・「エンジョイクラブ」登録者	紫野児童館	・配布、その場で記入および回収。	・今年度の活動の振り返りと感想を記入してもらおう。活動時間は今年度から午前中に変更したが、振り返りの中で活動時間は午前中のままでいいという声が多く、来年度も活動時間は午前中とする。しかしながら、来館児童の多くが10時より前に来ていたので、開館時刻の10時に来館するよう声掛けをしていきたい。また、アンケートの中で「先生に手伝ってもらいたくない」という回答もあり、もう少し、子どもたちが主体となって取り組んでいけるような職員としての支援を考えていきたい。
		・講座アンケート（親子クラブ内実施）	・企画参加後の意識調査 ・次年度の運営の参考にする。	・講座（親子クラブ）参加者	紫野児童館	・企画終了後、その場で記入および回収。	・参加しての感想と、今後どのような講座を希望するかなどの意見が書かれており、その中に書かれていた「子どものための性教育」を年度内に実施することができた。今後も利用者のニーズに応じた講座選びの参考としたい。
	(6) 地域調査活動	・利用者共通アンケート	・利用者の意識調査 ・次年度の運営の参考にする。	・紫野児童館利用者全員	紫野児童館	・配布、その場及び、後日に記入、回収。 ・学童クラブ保護者は、Googlefoamにて実施。	・「中高生と赤ちゃんとの交流事業」も2年が経ち、高校生から多くの回答を得ることができた。また、交流事業後も積極的に活動に参加する高校生の姿もあり、高校生の継続利用にもつながった。 ・また、今年度はボランティアや地域の方々に配布する事が出来、応援してくださっている方々の思いや、職員への励みになるお言葉をいただく機会になった。
		・幼児クラブ「はとぼっぼ」	・利用者の意識調査 ・次年度の運営の参考にする。	・幼児クラブ「はとぼっぼ」登録者	紫野児童館	・配布、その場で記入および回収。	・クラブ登録者や参加者の想いが具体的に記入されており、意識確認ができた。特に、おでかけにみんなで行けたことが親子共にリフレッシュとなったという意見を取り入れ、今年度はより参加しやすくするために、身近な場所へと変更した。また、家ではできない体験ができたという声も多くあり、次年度も家庭ではなかなかできない体験や季節を自然の中で感じる活動を取り入れていきたい。
	連携・交流先	取組内容		青果と課題			
	(7) 地域の子どもの居場所との連携・交流	・小規模保育所「ひゅうが乳児室」 ・企業主導型保育園「きょうと保育園」	・日常的なおそび場所の提供 ・運動会の開催場所としてグラウンドを提供	・小スペースで保育されている中、児童館が活動場所の一つとなっており、喜んでいただいている。 ・児童館の事業にもっと参加していただきたいが時間があわないことが多い。気軽に参加していただけるよう、より声かけをしていきたい。			
		・京都市子育て支援活動いききセンターつどいの広場「かしの木」 ・放課後等デイサービスくら雲	・おたよりの交換 ・行事へのお誘い	・利用者に社会資源として、幅広く情報発信できる場となっている。			

	広報物の種類	発行頻度	広報対象	広報方法	広報内容	成果と課題
広 報 活 動	・児童館だより 【乳幼児版・小学生以上版】	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館利用者 ・学童クラブ登録世帯 ・幼児クラブ登録者 ・あそびの広場参加者 ・地域住民 ・各小学校 ・関係諸団体 ・学生ボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ掲載 ・持ち帰り ・掲示 ・鳳徳学区地域回覧 ・法人内児童館配布 ・ブロック施設長会配布 <ul style="list-style-type: none"> ・持参 【北図書館・北老人福祉センター・紫野授産所・まちづくり推進課・北こどもはぐくみ室・鳳徳学区地域諸団体連絡会・北保健福祉センター・エムジー・くじら雲・北区社会福祉協議会】 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の行事予定 ・クラブ、広場の予定 ・次月の予告 ・行事、取組の様子や報告 ・児童館の利用方法や紹介 ・お知らせ、お願いなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営協力会会議内で、回覧だけでなく、各諸団体会長にもおたよりが欲しいとお声が上がった。毎月1回実施の「鳳徳各種団体連絡協議会」に館長が参加し、手渡しでおたよりを配布するようにした。 ・鳳徳学区の民生児童委員の方に「乳幼児版」のおたよりを複数枚お渡しし、乳幼児のいる世帯に直接配布してもらうことで、必要な情報を対象者に提供することができた。 ・令和6年度より「乳幼児版」・「小学生以上版」の2種類にわけて発行してきた。定着に伴い、利用者にとってわかりやすいだけでなく、作成側もレイアウトやコマ割りに苦労することがなくなった。
	・子育て情報誌 「なかよしこよし」 (地域ステーションだより)	8月	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館利用者 ・幼児クラブ保護者 ・あそびの広場参加者 ・地域住民 ・関係諸団体 ・掲載施設利用者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ掲載 ・持ち帰り ・掲示 ・鳳徳学区地域回覧 ・法人内児童館配布 ・ブロック施設長会配布 <ul style="list-style-type: none"> ・持参 【北図書館・北老人福祉センター・紫野授産所・まちづくり推進課・北こどもはぐくみ室・鳳徳学区地域諸団体連絡会・北保健福祉センター・エムジー・くじら雲・北区社会福祉協議会・掲載施設】 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館行事のお誘い、紹介 ・地域の子育てに関する情報 ・近隣施設の子育てに関する情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、保育園や幼稚園の近隣施設に協力してもらい、他施設の子育て情報を載せることで、多くの情報を発信することができた。 ・また、令和6年度から開始した親子クラブ「親子でリフレッシュ」についても、12月末までの情報を掲載し、よりたくさんの方に知っていただく機会とした。 ・1年に1回発行する特別号なので、学区の民生児童委員さんにも配布の協力をお願いするなど、より多くの乳幼児保護者に情報が行きわたるよう工夫をしていきたい。
	・幼児クラブ 「はとぼっぼ」だより	月1回	・幼児クラブ登録者	・配布	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の取組内容 ・絵本や手あそびの紹介 ・子育てに関する情報 ・お知らせ、お願いなど ・前月の様子 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の絵本や手あそびなど、マンネリ化しないように昨年度とは変えるよう心がけた。 ・毎月裏面に、前月の活動の様子を写真だけでなく、吹き出しを多くつけ、より楽しんで振り返っていただけるようにした。また、おたよりの発行を心待ちにする利用者の様子も見受けられた。 ・登録者数、出席者数が年々減少しているため、少しでも増加するよう、日常的に児童館に足を運んでくださる方々だけでなく、より広くに周知できるよう広報活動に力を入れていきたい。
	・各種イベントの ポスター・チラシ	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館利用者 ・歩行者 	・掲示	・毎月のイベントの日時、内容、申込について	<ul style="list-style-type: none"> ・各種事業内容について、じどうかんだよりに留まり、今年度もポスターやチラシの作成が十分ではなかった。来年度は、月初めに確認を行い、丁寧に取り組んでいきたい。また、北大路通りの窓への掲示も有効的に利用していきたい。